様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３４３０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ０１５２３

研究課題名（和文）再分配の実験研究：意図の推測と評価の更新

研究課題名（英文）An experimental study of redistribution

研究代表者
小田　秀典（Oda, Sobei Hidenori）

京都産業大学・経済学部・教授

研究者番号：４０２２４２４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：再分配の実験研究を行なった．主要な発見は，初期分配がたとえまったく偶然によって決定される場合でも，被験者たちは，初期分配を考慮して再分配を提案することである．具体的には，初期分配が不利な主体は，平等に近い再分配を提案し，初期分配が有利な主体は，初期分配に近い再分配を提案した．これは，個人の主張する公平概念が，個人の性格に依存するだけでなく，個人の置かれている状況に依存することを示唆するとともに，実現された分配は，どのように実現されたものでも，一定の尊重を受け，既得権として配慮されることを社会的含意としてもつ．

研究成果の学術的意義や社会的意義
人々の主張する公平が，個人の公平観だけでなく，置かれている状況に依存することを，実験で明らかにしたこと．特に，既得権は，それが尊重される程度はそれが正当化される程度と無関係であるが，たとえ正当化されないものでも，実現されたというだけで一定の尊重がされることは，現実社会における再分配政策の設計に含意をもつ．

研究成果の概要（英文）：A series of redistribution experiments were conducted. The main finding was that subjects proposed redistributions that took into account the initial distribution, even when the initial distribution was determined entirely by chance. Specifically, subjects with unfavourable initial distributions proposed redistributions that were closer to equality, while subjects with favourable initial distributions proposed redistributions that were closer to their initial distributions. This implies that the concept of fairness claimed by an individual depends not only on the character of the individual but also on the situation in which the individual is placed, and has the social implication that the distribution realised, no matter how it is realised, receives a certain degree of respect and consideration as a vested right.

研究分野：実験経済学

キーワード：再分配実験　状況依存の公平観　既得権の尊重

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1　研究開始当初の背景

所得再分配は，実験経済学においても主要な研究課題であり，最も簡単な再分配ゲームとしてである独裁者ゲームの実験研究が様々な被験者を対象に多様な設定でなされている．それらの実験のほとんどすべてで（対戦者だけでなく実験者に対しても匿名性が保たれる設定の実験も含めて），独裁者は，所得を独占できるにもかかわらず，そうしないことが観察されている．

独裁者ゲームの実験結果は，独占者の公平観は，(i) 独占者を演じる実験参加者の公平観と (ii) 独占者の地位の正当性に基づくことを示唆する．なぜなら，最後通牒ゲームでは先手は後手の反撃の可能性を考慮に入れなければならないが，独裁者ゲームでは，被支配者に反撃手段がまったくなく，独裁者が利益最大化（所得の独占）をためらう理由は，独裁者の公平観のほかに考えられないからである．実際，独裁者の公平観が何によって形成されるかを知ることが，実験研究の主要な課題となっており，(i) については実験参加者に対して心理テスト（協調性，他者の利益に対する配慮などについての検査）を実施することで，(ii) については独占者の選出について様々な方法（無作為，何かのゲームを対戦させて勝者を独裁者にするなど）を試すことで，研究が進められている．

独裁者ゲームの実験結果は，（被験者集団，謝金金額，独占者の選出方法など実験ごとに異なるので）単純な相互比較を許すものではないが，個人個人の公平観はそれほど多様ではなく，社会で妥当と認められる公平概念は，唯一ではないが，限られる（全員平等な分配，能力に応じた分配，努力に応じた分配など）ことを明らかにしているように思われる．

なお，多くの独裁者ゲームの実験研究においては，独裁者が無作為に選ばれるときの独裁者の所得独占率（独占可能な所得のうち何割を自分の所得とするか）の平均は，被験者集団の平均的公平感の指標とされ，被験者集団の属性（性別，年齢，地域など）の相違に基づく公平感の異なりと理解されるとともに，同一被験者集団の様々な独占者選出方法に対する評価（独占者の選出方法が公平と見做されるほど，独裁者の所得独占率が大きい）とも解釈されている．

2　研究の目的

本研究の作業仮説は，「各人が固有の（状況に依存しない）公平観をもつとは限らず，状況に応じて異なる公平観を使い分ける可能性がある」である．これは，たとえば，同一主体でも，現在の分配が不利と感じるときには，平等な再分配を公平な分配として求め，現在の分配が有利と感じるときには，現

在の分配を公平と主張して再分配を拒否する可能性を示唆する．既存研究では考察から排除されているこの可能性を，実験に基づいて考察するのが本研究の研究目的である．

3　研究の方法

研究目的に沿って，

> 人々は，初期分配における自身の有利あるいは不利の程度に応じて公平概念を変化させ，それに応じて異なる再分配を提案する．

を，実験室実験と視線計測実験に基づいて検証する．

本研究では，独裁者ゲームではなく，以下の再分配ゲームの実験が実施された．

1. 2 人のプレイヤーの初期分配が決定される．
2. それに対して，両プレイヤーが各々の再分配案を提示する．
3. いずれかの再分配が無作為に選ば，実行される．

この設定のもとでは，（自身の提案が実現されるとは限らないが）対戦相手の反応を考慮する必要がなく，どちらのプレイヤーも独裁者として振る舞うことが期待される．

上の実験は，異なる被験者集団（日本の大学生と中国の大学生）に，複数の設定で実施された．初期分配の決定としては，以下の 3 つの設定が試された．

(a) 初期分配は，実験参加者のジクソーパズルの成績（有限時間内に正しく嵌められたピース数で測定）に応じて決定される．

(b) 初期分配は，危険資産の選択と確率変数の実現値に応じて決定される．

(c) 初期分配は，無作為確率的に決定される

多くの被験者は，初期分配の決定は，順に，(a) 個人の能力あるいは努力に依存する，(b) 個人の危険選好と運に依存する，(c) 偶然だけに依存すると見做すであろう．

本研究にとって最も重要な設定は，既存研究では重視されなかった (c) であり，主要な関心は，既存研究で重視された平均的再分配提案ではなく，初期分配が有利な主体（2 名の所得の合計の過半を初期分配された者）の提案

する再分配と，初期分配が不利な主体（2 名の所得の合計の半分未満を初期分配された者）の再分配の比較である．本研究の仮説が正しければ，両者は異なるはずである．

なおさらに詳細な考察をするために，(a)，(b)，(c) の各場合について，初期分配が極端に不平等になりうる設定と，そうでない設定が比較された．前者は，再分配で相手の所得がゼロになると（すなわち，全所得を自分に与える再分配を提案し，それが実現されると）相手の謝金がごく少額の参加者金になる設定で，後者は，そのような場合にもある程度の参加者金や追加実験からの謝金を得られる設定である．これは，再分配の提案において，再分配ゲームにおける公平性の判断だけでなく，相手の得る謝金の絶対額へのどの程度まで働くかを見るためである．加えて，初期分配が決定されてから再分配が提案される設定と，初期分配が決定される前に再分配が提案される設定（もし初期分配が…になれば．…の初期分配を提案したい）の比較，相手の再分配提案とその予想との比較（相手がどのような公平感をもつか正しく予測できるか否かを知るため），およびアイトラッカーによる視線計測実験が実施された．

4　研究成果

既存研究の結果は，ほぼ再現された．たとえば日本の実験では，自身への再分配率は (a) 78 パーセント，(b) 75 パーセント，(c) 70 パーセントであった．これは，既存研究の結果，すなわち，独裁者ゲームの独占者の自己分配率が 80 パーセント前後であることと，(ii) 初期分配に偶然の要素が少ないほど初期分配が尊重されることに合致する．（ただし，日本における実験における自己分配率の差は，既存研究より小さく，統計的に有意ではなかった．中国では，(a) 73 パーセント，(b) 59 パーセント，(c) 58 パーセントで，(a) と (b) の差は大きかったが，被験者数が小さく，10 パーセントで有意だったが，5 パーセントでは有意でなかった．）

本研究の主要な結果は，以下の表にまとめられる．

初期分配	再分配率	
	平均	標準偏差
不利	64	0.33
平等	75	0.22
有利	84	0.19

ただし，再分配率は，再分配において自分自身に再分配する所得の割合（たとえば「自分に 7 割，相手に 3 割」と提案すれば，再分配率は 0.7）を表し，初

期分配が有利不利は，初期分配に占める自分の所得の割合で決定される（たとえば初期分配が，A に 2000 円と B に 1000 円であれば，A は初期分配が有利な主体で，B は初期分配が不利な主体である）．

上の再分配率の表は，本研究において実施した (c) の実験で得られたすべての再分配率を，被験者集団や設定の違いを無視して，合計して得られたものである（自己分配利率の標準偏差が，(a)，(b)，(c) の順に大きいのは，一定数の被験者は，初期分配がどうであっても，自身がすべての所得を独占する再分配を提案するためである）．再分配率が初期分配が有利なほど大きいことは，被験者集団，設定，被験者の類型（心理テストの結果に応じて分類される）ごとに再分配率を計算しても，ほぼすべての場合で確認された．

以上から，「初期分配における自身の有利あるいは不利の程度に応じ て公平概念を変化させ，それに応じて異なる再分配を提案する」ことは，ほぼ確認された．

付言すると，相手の再分配率の予測においても，相手の初期分配が有利なほど，相手は自分に有利な再分配を提案すると予測したことが確認された（相手の再分配提案の予測と相手の実際の再分配提案の差は，場合によるが，かなり大きいときもあった）．さらに，実験室実験では，被験者の意思決定（自身の再分配提案，および他者の再分配提案の推測）が観察されるだけであるが，被験者が意思決定をするまでの思考の過程を視線計測実験で推測した．具体的には，他者の再分配提案を推測するときの視線の動線を調べたが，利得表を見ながら相手の分配案を推測するとき，他者の所得金額よりも自分の所得金額に注目する時間の方が長かったことなど，仮説の妥当性を示唆する視線移動が，統計的に有意な水準で確認された.[1]

要約すると，本研究の主要な発見は，初期分配がたとえまったく偶然によって決定される場合でも，被験者たちは，初期分配を考慮して再分配を提案することである．具体的には，初期分配が不利な主体は，平等に近い再分配を提案し，初期分配が有利な主体は，初期分配に近い再分配を提案する．これは，個人の主張する公平概念が，個人の性格に依存するだけでなく，個人の置かれている状況に依存することを示唆するとともに，実現された分配は，どのように実現されたものでも，一定の尊重を受け，既得権として配慮されることを社会的含意としてもつ．

[1]本研究の実験は，代表者の指導する院生である繆蕾とともに実施された．本研究の詳細および関連する参考文献については，繆蕾の博士論文（https://ksu.repo.nii.ac.jp/records/2000208）を参照されたい．

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Ley Miao and Sobei H. Oda
２．発表標題 An Experimental Study of Vested Interest and Income Redistribution
３．学会等名 Workshop on Microeconomic Analysis of Social Systems and Institions
４．発表年 2023年

１．発表者名 Sobei H.Oda
２．発表標題 An Experimental Study of Income Redistribution
３．学会等名 「2019年度 中国科技部外専プロジェクト「実験経済学の応用と発展」（課題番号：G20190030015）」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 繆蕾，小田秀典
２．発表標題 An experimental study of redistribution:people's opinions and their guess
３．学会等名 China Meeting on Game Theory and Applications（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	和泉　悠 (Iaumi You) (10769649)	南山大学・人文学部・准教授 (33917)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関